

第9回水稲病害虫発生予察結果

《稲の生育について》

5 月上旬田植えの早生品種[コシヒカリ・キヌヒカリ等]

前回の調査では、粃を指で潰すと白い液体が出る状態でありましたが、今回の調査では指で潰せないほど硬い状態になっていました。粃の色については、水の取り入れ口付近を除いた部分で、1 つの穂の 60% 程度のモミが薄黄色になっておりました。この時期は、米の品質を確保するため、まだ水が必要ですので、できるだけ田んぼに水を入れるようにしましょう。水を止める時期は、収穫の 7 日前を目安にしましょう。



左の画像が刈取り適期の粃の色です。
1 つの穂につく粃の 90% が黄色く
なったら、収穫の適期となります。

※収穫時期が早いと青米などの未熟米が多くなり、収穫時期が遅いと胴割米や着色米が多くなります。
どちらも米の品質と食味を著しく低下させるので、適期に収穫するようお願いします。

5 月下旬田植えの晩生品種[あいちのかおり SBL]

生育は昨年度よりも早く、穂が出始めていました。この時期は粃を充実させるための水と、根を健全に保つための酸素が必要な時期ですので、**間断灌水**（水の深さが 2~3 cm 程度になるまで田んぼに水を入れ、田んぼの表面が見えたらまた水を入れる管理）を行ないましょう。

《各地区の主な病害虫発生状況》

今回の調査では、早生品種の一部の圃場にカメムシが多く発生していました。粃が完全に硬くなるまではカメムシによる食害の危険がありますので、薬剤による防除を行なってください。1 度防除したという方も、薬剤の効果が落ちてきた頃にカメムシは再び発生しますので、2 度目の防除をお願いします。

晩生品種「あいちのかおり」では、出穂してから粃が硬くなるまでの間はカメムシの防除が必要ですので、下記の薬剤で防除を行なうようにしてください。カメムシの防除は穂揃期に 1 回、その 7~10 日後に 2 回目の防除を行なうようにして下さい。

カメムシは暑いときには株もとにいて薬剤がかかりにくいので、できるだけ涼しい午前 9 時までか、夕方 5 時以降に薬剤散布を行ないましょう。

《薬剤の紹介》

病害虫名	薬剤名	10a 使用量	1 回目防除時期	2 回目防除時期
カメムシ	トレボン粉剤	3~4 kg	穂揃期	1 回目の散布から 7~10 日後
	スタークル粉剤	3 kg	穂揃期	1 回目の散布から 7~10 日後